

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(2021.12)令和3年度:

,

新型コロナウイルス感染症パンデミック時における医療系大学生の不安と関連因子の検討

須藤汐音、多田有美香、松本彩伽
(指導：及川 賢輔)

緒言

2019年12月、中国で発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、瞬く間に全世界に拡大し、11ヶ月後の2020年11月には、世界の感染者数は5千万人、死亡者数は120万人を超え、いまだ増加の一途を辿っている¹⁾²⁾。COVID-19に対する確立した治療法はなく、終息は見えない状態である。

COVID-19パンデミックが、人の社会生活、経済に与えた影響は甚大で、教育においても変容を余儀なくされ、現在大学、大学院の約95%が教育施設への来学が困難な中、インターネットを利用したオンライン授業によって講義が代替され、対面型の演習・実習など、人との接触が必要な内容は中止となっている³⁾。特に医療系大学生にとっては、実習の前段階の学習である学生同士で対面して行う演習や、実際に患者と接することで実践を学ぶ臨地実習は、非常に重要で不可欠なカリキュラムである。実習直前の演習は、臨地実習に対する学生の不安を軽減し、自己効力感を高めることにつながり、演習が基礎教育の一つとして有用である。しかし、多くの医療系大学では、現在のCOVID-19の状況により、院内感染と学生の感染を防ぐため、演習・実習が中止あるいはオンライン形式の演習・実習によって代替されている。

このような演習や実習の形態変化が、医療系大学生の実習あるいは将来への不安を引き起こしている可能性があるのではないかと考えた。そこで本研究では、医療系大学生の不安の程度を明らかにし、さらに、不安に影響を与える関連要因の探索を試みたので報告する。

方法

【研究対象】令和3年度A大学医学部に在籍している看護学生1~4年生と医学生1~6年生。

【データ収集方法】対象者に対し、電子メールで調査の趣旨、方法、倫理的配慮等を説明し、Googleフォームを用いて作成した無記名オンライン質問票を用いた調査を行った。調査は、夏期休業明けの2021年8月から9月までの期間に行った。調査当時における日本国内のCOVID-19患者数は、146万9327人であり⁴⁾、8月の新規感染者は56万7572人であった⁵⁾。

【調査内容】以下1~7の主要項目について、計76個の質問で構成される質問票を作成した。1. 基本属性(学年、学科、性別、血液型)・社会生活活動(アルバイトの有無、クラブ活動) / 2. 状態不安 / 3. 特性不安 / 4. 不安要因 / 5. 恐怖認知。

状態不安と特性不安に関する質問項目は信頼性および妥当性が検証されているSTATE-TRAIT ANXIETY INVENTORYの日本語版(大学生用)を用いた。状態不

安は、特定の場面・出来事・対象物に置いて抱く一時的な不安反応、特性不安は、その人の性格などに由来する不安になりやすい傾向を持つ性質を指す⁶⁾。

【データ分析方法】状態不安・特性不安のスコアを、所属学科、学年、性別などで層別化して有意差を検討した。2群間については、マン・ホイットニーのU検定、3群以上の比較では、クラスカル・ウォリスの検定を行った。また、不安に関連する要因を調べるため、状態不安・特性不安、不安要因の項目間でSpearmanの相関分析を行い、有意に相関する項目を独立変数、状態不安・特性不安スコアを従属変数として重回帰分析を行った。また、注目した質問項目に対して、学年間の回答比率について、独立性の検定及び比率の多重比較を行った。有意水準は5%未満とした。統計ソフトはSPSS ver. 22を使用した。

【倫理的配慮】電子メールにて本研究の目的、方法、所要時間等の説明を行い、調査票への回答、提出をもって本研究への参加に同意とすること、研究への参加は自由意志であり、不参加でも不利益はないこと、データは本研究以外には利用せず、研究終了後、電子データは消去することを説明した。

結果

1. 対象者の概要(対象者数・属性)

対象者は医学科702名、看護学科243名の計945名。Web上で回答が得られたのが208例で、有効回答者数は207名(回答率21.9%)であった。207名のうち、医学科116名(56.1%)、看護学科91名(43.9%)で、男性は79名(38.2%)、女性は128名(61.8%)であった。

2. 不安と所属学科・学年、男女間の差

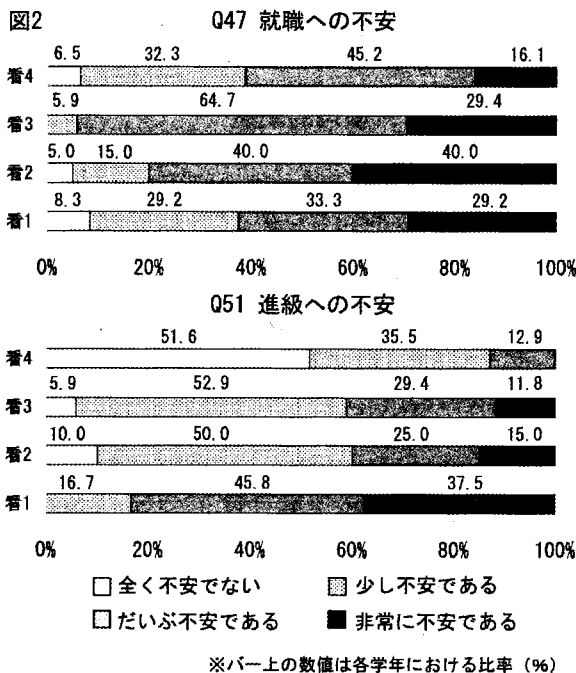
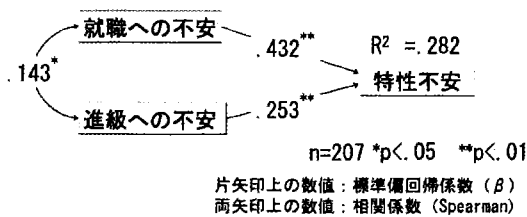
所属学科・学年と状態不安のスコアの有意確率は0.100、特性不安では0.160であり、差はみられなかった。所属学科における特性不安の平均スコアは、医学科が95.67、看護科が115.63と、看護学科の方が有意に高い結果がみられた。また、性別における特性不安の平均スコアでは、男性が89.53、女性が113.67と女性の方が有意に高い結果がみられた。

3. 不安の関連因子の検討

特性不安、状態不安と有意な関連を示す項目について、重回帰分析を行ったところ、「就職への不安」「進級への不安」が、特性不安に関連する因子であることが分かった(図1)。看護学科1年~3年生は学年が上がるにつれて、「就職への不安」と回答した者の比率が大きくなる傾向がみられた。また、「進級への不安」については、看護学科1年生

では、全く不安のない者が0%で、他学年に比べ、有意に不安を抱える者が多かった(図2)。

図1 特性不安を従属変数とする重回帰分析(パス図)



考察

1. 不安と属性について

先行研究より看護学生は実習前と実習中に不安が増強すると報告されているが⁷⁾、今回の調査期間は実習直前の学年がなかった。また、4学年は就職活動が終わり調査時期特有の不安の増強要因はなかったことが予測されるため、学年間で有意差がみられなかったと考える。今回の研究で学年間の不安を比較するには一定の限界があると考えられるため、将来的には、入学時から卒業時まで継続して調査する縦断研究を行うことが必要だと考える。

また、男女差について、男性に比べて女性の方が悩みやストレスを感じる程度が有意に高いと報告されている⁸⁾が、今回も同様に女性の特性不安が有意に高いという結果が出た。医学科と比較して看護学科の特性不安が高いのは、所属する女性の割合が多いことによるものだと予測される。これらの結果から、特に女性に対して不安軽減に向けたアプローチを重点的に行っていく必要があるのではないかと考える。

2. 不安の関連因子について

今回私たちが予測していた、不安と「新型コロナウイルス感染症による演習や実習の形態変化」について、有意な関連はみられなかった。これは、調査期間が新型コロナウイルス感染症の流行開始時から1年半以上経過しており、授業形態の変化や実習・演習の減少に慣れが生じたためと予測される。

「就職への不安」について、1年生に比べて2年生の方が就職に対する不安が増強し、時期を追うごとにも増強していくという報告がある⁹⁾。本研究でも学年が上がるにつれて不安の増強がみられた。一方で、4年生の就職に対する不安が弱かったのは、前述したとおり就職活動が終わっていたからだと予測される。これらの結果から、就職活動の時期が近づいていくにつれて不安が増強することが分かる。以上のことから、就職活動へのサポートは学年が上がるにつれて重要性が増すだろう。

「進級への不安」について、1年生が最も高く、学年が上がるに応じて減少する傾向がみられた。1年生は入学したばかりで慣れないことも多く、進級を経験していないことで緊張感があり、不安が強いと予測される。そのため、1年生への精神的なサポートが重要である。

結論

1. 状態不安・特性不安と所属学科・学年について差はみられなかった。
2. 医学科と比較して看護学科の特性不安の方が優位に高い結果がみられた。
3. 医療系大学生の不安の要因として「就職への不安」「進級への不安」がある。
4. 本研究は、A大学に限られた結果であるため、一般化には限界がある。また、より正確なデータを得るには縦断研究が適切であると考えられる。

引用・参考文献

- 1) WHO (2020) 「Coronavirus Disease (COVID-19) Dashboard」 (<https://covid19.who.int/>) (2020年11月11日閲覧)
- 2) 忽那賢志(2020)：新型コロナウイルス感染症(COVID-19)臨床症状から治療候補まで,医学のあゆみ,6(273)
- 3) オンライン教育の重要性と課題・内閣府
【https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2020/0708/shiryo_01-3_2.pdf】 (2020年10月1日閲覧)
- 4) 厚生労働省 (2021) 「データからわかるー新型コロナウイルス感染症情報ー」 (<https://covid19.mhlw.go.jp/extensions/public/index.html>) (2021年11月10日閲覧)
- 5) 厚生労働省 (2021) 「新型コロナウイルス感染症の現在の状況と厚生労働省の対応について (令和3年8月31日版)」 (https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_20799.html) (2021年11月10日閲覧)
- 6) 清水秀美ら(1981)：STATE-TRAIT ANXIETY INVENTORYの日本語版(大学生用)の作成,教育心理学研究,29(4)：348-353
- 7) 近村千穂、小林敏生、石崎文子ら (2007)：看護臨床実習におけるストレスとコーピングおよび性格との関連,広島大学保健学ジャーナル,7(1),15-22
- 8) 久井志保 (2015)：大学生の生活習慣およびストレスに関する性差についての検討,日本看護学会論文集ヘルスプロモーション(2188-6458),45,54-57
- 9) 高下梓、山下照美、奥原香織 (2021)：看護学生の不安・悩み・ストレスに関する実態調査(2) 学年による特徴,松本短期大学研究,31,13-26